

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満25年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との関係協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第68回協議会 平成21年7月13日（月）
- (2) 第69回協議会 平成22年1月18日（月）

2. 幹事会の開催

- (1) 第85回幹事会 平成21年6月29日（月）
- (2) 第86回幹事会 平成21年7月13日（月）
- (3) 第87回幹事会 平成22年1月18日（月）

3. 研修会

- 日時：平成22年1月18日（月）
- I テーマ：神奈川県医師会における消化器がん検診－上部消化管内視鏡検診への取り組み・他地区との比較－
講師：神奈川県医師会 理事 羽鳥 裕 先生
- II テーマ：日本消化器がん検診学会の最近の動向－特に胃X線について－
講師：財団法人 早期胃癌検診協会 中央診療所 所長・常務理事 馬場 保昌 先生

4. 技術部会（全体会議）

- (1) 第1回 平成21年5月29日（水）
- (2) 第2回 平成21年8月26日（水）
- (3) 第3回 平成21年11月18日（水）
- (4) 第4回 平成22年2月17日（水）

5. 講習会（がん検診X線撮影従事者講習）

日時：平成22年2月22日（月）
主催 神奈川県 ＊共催機関として協力

神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会名簿

横浜市立市民病院がん検診センター	検査担当部長	今村 清子
川崎市がん検診センター	所長	石山 暁
(財)逗葉地域医療センター	施設長	川原 英之
(医)松英会	理事長	丹波 靖
(財)京浜保健衛生協会	理事長	寺門 運雄
(医)倉田会 メディカルサポートクリニック	院長	矢作 淳
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	宗像 覚
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会長	中安 邦夫
(財)結核予防会神奈川県支部	専務理事	西平 浩一
(財)神奈川県予防医学協会	理事長	磯村 共庸
神奈川県立厚木病院	病院長	土屋 尚
(医)社団相和会産業健診事業部	理事長	田代 和也
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理事長	土屋 章
相談機関		石井 敏之
神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課	課長	石川 信之
神奈川県医師会	理事	石井 出
神奈川県医師会	理事	羽鳥 裕
		平成22年8月1日現在 (事務局 稲葉 稔明)

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象にお互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、北里大学東病院 内視鏡科科長代理 木田 光広医師に世話人をお願いし、下記の通り行われた。

第29回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

- 日時 平成21年4月26日（日）
会場 (財)横浜市教育会館
世話人 北里大学東病院 木田 光広
内視鏡科 三浦 美保
技師世話人 内視鏡科
内容 消化器内視鏡機器取り扱い講習会
一般演題 2題
教育講演 1) 内視鏡室における安全性
2) 処置具の適正使用とマルチソサイエティガイドライン

パネルディスカッション
安全で安楽な内視鏡室を目指して
(経鼻内視鏡やセデーションに関して)

入場者 464名
今回は、「教育講演」として内視鏡室で使用される化学物質取り扱いに関する法令に基づいての講演が行われた。作業環境の法令基準、作業時の防護対策等日常業務に合わせて具体的な内容で、職場の現状と比較し易く解説されたため各施設で反映し易い内容となった。

顧問（五十音順）

- 青木 誠孝 青木医院
- 比企 能樹 北里大学病院名誉教授
- 西元 時克禮 北里大学病院名誉教授
- 藤田 力也 昭和大学藤が丘病院名誉教授
- 山川 達郎 帝京大学溝口病院
- 小泉 博義 藤沢湘南台病院
- 南 康平 丹羽病院

役員

- 青地 広美 横浜市立大学医学部付属市民総合医療センター
- 片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院
- 佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会
- 佐伯 美奈 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
- 鈴木 瑞穂 松島クリニック
- 瀬戸 道雄 青木医院
- 谷合 幸乃 横浜市こども青年局
- 高木ちなつ 藤沢湘南台病院
- 中村 深雪 横浜市民病院
- 納所けい子 神奈川県予防医学協会
- 花木由香里 村松内科胃腸科クリニック
- 平井 弘子 東名厚木病院
- 藤田 賢一 帝京大学溝口病院
- 藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院
- 星野 朱美 横須賀共済病院
- 松橋 妙子 国際親善総合病院
- 三浦 美保 北里大学東病院
- 武藤美枝子 東海大学病院
- 渡部 博一 川崎幸病院

(事務局 納所 けい子)

横浜市マンモグラフィ判定委員会

厚生労働省のがん検診の指針に則り、横浜市は平成13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成21年4月現在63機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

平成17年7月から、対象者を40歳以上の隔年とし、40歳代には2方向撮影、50歳以上には1方向撮影にて実施している。

システムとしては、上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、撮影装置のない医療機関は視触診のみを実施し装置のある医療機関でマンモグラフィ撮影を行い、一次読影を撮影医療機関で行ってフィルムを判定委員会に送付する。判定委員会では二次読影を行い、読影結果とフィルムを視触診を実施した医療機関に返し、そこで総合判定を行い受診者に説明するというシステムである。

判定委員会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めてきた。

なお、判定委員会の事務局・運営は発足当初の平成13年10月より横浜市からの委託で当協会が担当してきたが平成21年9月をもって終了し、10月からは横浜市医師会に移管された。

判定会開催（21年4月～21年9月）49回

検討会開催 21年5月22日

判定委員会委員長

聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イ
メージング先端医療センター附属クリニック
院長 福田 護

判定委員会副委員長

八十島クリニック 院長 八十島 唯一

判定委員 31名

（事務局 栗原 博）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

地域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長 福田護（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されています。

同連絡会は「県生活習慣病対策委員会がん・循環器病対策部会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局県保健福祉局）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されています。

また同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

会 員（敬称略：順不同・平成22年8月1日現在）

会長・聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イ
メージング先端医療センター附属クリニック
院 長 福田 護

〈医療機関名〉

横浜市立大学医学部一般外科	利野 靖
横浜市立民総合医療センター-外科	石川 孝
昭和大学藤が丘病院	松宮 彰彦
横浜南共済病院	松川 博史
日本医科大学付属第二病院	天神 敏博
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	蔵並 勝
平塚共済病院	谷 和行
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
秦野赤十字病院	蓮尾 公篤
東海大学病院	徳田 裕
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	大谷 泰雄
伊勢原協同病院	飯尾 宏
平塚市民病院	金井 歳男
熱海病院	岩崎 博幸
海老名総合病院	山喜 一郎
津久井赤十字病院	西山保比古
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
横浜旭中央病院	櫻井 修
横浜掖済会	高橋 利通
横浜市南部病院	池 秀之
湘南記念病院	土井 卓子
東名厚木病院	日野 浩司
	（事務局 稲葉 稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

平成21年度の活動状況

《第38回研究会・第15回超音波研究会》

開催日時：平成21年6月27日(土)

14:00~18:00

会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「最新乳房MRI診断と今後の展望」
聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター 放射線科 印牧義英先生
2. 「乳房超音波検査の組織特性
-超音波の特性特徴を生かした超音波の見方-」
聖マリアンナ医科大学病院 超音波センター
桜井正児先生
3. 「乳腺病理入門
-とことん乳腺病理を勉強しよう-」
埼玉県立がんセンター病理部
部長 黒住昌史先生
参加者：140名

《第39回研究会・第16回超音波研究会》

開催日時：平成21年11月28日(土)

14:00~18:00

会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「マンモトームについて」
横浜旭中央総合病院 乳腺外科部長
桜井 修先生
2. 「乳腺病理の基礎 (PARTⅢ)」
日本医科大学付属病院 病理部 永井祥子先生
3. 「マンモグラフィ講習会について」
日本乳癌検診学会精中委 事務局長
次長 技術総括 堀田勝平先生
参加者：111名

世話人会の開催

平成21年5月18日 19:00~21:00

平成21年10月25日 19:00~21:00

於：神奈川県予防医学協会
(事務局 見本 喜久子)

ピンクリボンかながわ

乳がんの早期発見・早期治療をめざして、NPO法人乳房健康研究会と共に活動を始めた「ピンクリボンかながわ」は、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取組み4年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

主な活動は、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。

神奈川県の乳がん死亡率は全国でワースト第4位。『自分だけは』と思っている方や、子育てや介護、仕事で自分自身のことは後回しにされる方が多いなか、早期発見の大切さを一人でも多くの方に気づいてほしい、神奈川県から乳がんで亡くなる方を一人でも減らしたいとの思いで活動している。

活動メンバーは、ボランティア登録している協会関係者や外部ボランティアの協力で構成され、参加ボランティアも、年々拡大し大きな力となっている。

平成21年度は、県内市町村や企業等のイベントへ延べ34団体51日間、協力参加した。

主たる活動として、5月5日、横浜ベイスターズ専属チアチームディアナと共に横浜スタジアムをピンクのリボンで染め、9月26日、27日には、神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携しイベントを行い、更に、神奈川県庁、横浜マリンタワーをピンク色のライトアップを行った。

平成22年1月28日には、行政・企業、ボランティア等関係者による「ピンクリボンかながわ」むすぶ会(仮称)を開催した。

役員

1. 代表 野末 悦子 (コスモス女性クリニック)
2. アドバイザー 青野 智子
3. 監事 2名 吉泉 英紀 (横浜市監査事務局)
高木富美子 (乳房健康研究会)
4. 事務局長 栗原 博 (神奈川県予防医学協会)
事務局員 6名

ボランティア登録95名 (協会職員・協会OB・外部)
(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

当協議会は、昭和56年に神奈川県労働基準局労働衛生課（当時）の指導の下、県内で労働衛生に携わっている機関の内、中小企業労働者健康管理機関事業助成制度の登録機関18機関が参加し自主的に発足した。名称を「健康管理機関」としたのは「労働衛生機関」「健康診断機関」等の狭義的な活動範囲に留めず、健診前・後の教育、事後措置、フォローアップまでも含めた健康管理全般にわたる支援を目指す事を意味するものであった。企業の健康管理を側面から支援する企業外健康管理機関として、より、質の高いサービスを提供すると共に、労働衛生行政へも積極的協力していくことを目的として、年2回継続的に協議会を開催している

なお、平成21年度の会員機関は16機関である。

平成21年度活動状況

第1回協議会（平成21年10月14日）

1. 神奈川県労働局からの連絡事項
 - ・労災保険二次健康診断等給付の請求手続き
 - ・石綿健康管理手帳の交付対象業務の拡大について
 - ・平成21年度労働衛生行政のあらまし
2. 講演
 テーマ：健診機関における職場のメンタルヘルス対策サービス
 講師：株式会社産業医大ソリューションズ
 代表取締役社長 亀田 高志氏
 - (1) 職場におけるメンタルヘルス活動の現状
 - (2) EAP業界の現状から今後のメンタルヘルス事業化への課題

3. 情報交換
 - ・各機関のメンタルヘルス対策
 - ・インフルエンザワクチン接種の状況

第2回協議会（平成22年3月24日）

1. 神奈川県労働局からの連絡事項
 - ・胸部エックス線検査の省略基準の改正
 - ・職場における熱中症の予防について
2. 講演
 テーマ：健康保険組合の現状と今後
 講師：健康保険組合連合会神奈川県連合会
 会長 宮下 暁氏
 - (1) 健康保険組合の現状
 - (2) 医療制度改革に向けた取組と課題
3. 情報交換
 - ・経済情勢の影響と対策－受診者の減少状況など－
 - ・胸部エックス線検査等の対象者見直しの影響

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)ヘルス・サイエンス・センター
- (財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
 独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団日建会 日建クリニック
- (医)社団相和会
- (社)衛生文化協会 城西病院
 独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
 海外勤務健康管理センター
- (財)逗葉地域医療センター
 神奈川県厚生農業協同組合連合会
 健康管理センター

※平成22年3月31日現在

(事務局 根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川県労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

働く人の健康状況が悪化している原因としては、働く人の高齢化、運動不足、食生活の偏り、ストレスの増大が考えられます。

これら労働者の健康問題は、個人の問題にとどまらず、疾病休業者の増加や医療費の増大をもたらし、企業経営、ひいては国民医療を圧迫する要因にもなりかねません。

この改善策としましては、早期発見、早期治療という二次予防の健康管理だけではなく、より積極的に健康づくりに取り組むことが、最も有効な手段となります。

THPはすべての労働者を対象とした心とからだの両面にわたる健康づくりであり、継続的かつ計画的に、労働者の健康の保持増進のための措置を実施することを目的としております。

〈平成22年度加入機関〉

(財)神奈川県労働衛生福祉協会

(医社)こうかん会

(財)神奈川県予防医学協会

(事務局 北見 護)

肺疾患検討会

本年度をもって発足以来、28年目を迎える。本会の運営方法として（特に多数の方々に意見をきいて始めた訳ではないが）症例を前以ておしらせしない。肺の疾患は主として内科医であっても外科医であっても科にとらわれずお互いの疾患を認識していることが重要であると考えているので、例えば次回は外科に関することだから内科医としては関係ないから出席はやめよう（この逆も然り）などと考えるとその会は永続きしないのではないかと考えたりする。と言ってもこの会が28年続いているのがそのためだとは限りませんが……。とに角、熱心な呼吸器疾患を愛する？皆様の御蔭です。

第131回 平成21年5月26日。横浜市立大学附属市民総合医療センター 呼吸器センター。乾健二、山本健嗣、西井鉄平先生。ブラ壁に発生した肺癌の5例。

第132回 平成21年9月15日。藤沢市民病院 呼吸器外科。吉本昇、平谷清吾先生。1) 肺胸膜から発生した線維性腫瘍。2) 横隔膜に浸潤した転移性卵巣癌。3) 腫瘍内に出血、胸痛を起した横隔膜脂肪腫。4) 30年以上健診を受けていなかった巨大縦隔奇型腫。

第133回 平成21年11月17日。神奈川県予防医学協会放射線診断部 田中利彦先生。CT検診からみたCT所見の多様性について。

第134回 平成22年2月9日。神奈川県立呼吸器循環器病センター 呼吸器科。小倉高志先生。主として健診を契機として発見された多発性結節性陰影の9症例、(MALTリンパ腫、サルコイドーシス、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、リンパ腫様肉芽腫、成人型T細胞リンパ腫、アミロイドーシス等)。

以上 幹事 井出 研。

(事務局 井出 研)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社1、機関28、指定1、測定士45、その他11の計86会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親ほくを目的として、種々の事業を展開してきた。

平成21年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

(1) 支部会議

①総会1回 ②理事会2回

③技術専門委員会6回 ④機関全体集会1回

(2) 本部会議

①支部長会議 (21.7.30)

事 業

I. 作業環境測定推進大会 (21.9.28)

①特別講演

「最近の労働衛生行政の動向」

神奈川労働局労働衛生課長 斎藤 晃彦氏

②化学物質のリスクアセスメントと作業環境測定 (財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

③明治以降の粉じん濃度計を通してみる粉じん問題の推移

早稲田大学理工学部教授 名古屋 俊士氏

II. 技術研修会

(1) 第1回技術研修会 (21.5.8)

～石綿に関する健康障害について～

聖マリアンナ医科大学予防医学教室准教授

高田 礼子氏

(2) 第2回技術研修会 (22.1.29)

工場見学会：(株)ガステック 本社/工場

(3) 第3回技術研修会 (22.2.27)

①最近の法令改正(衛生関係)について

神奈川労働局労働衛生専門官 長久保 茂氏

②粉じん計の保守点検整備について

日測協精度管理センター課長 鈴木 治彦氏他

理事・技術専門委員名簿

理 事	技術専門委員
支 部 長 仙石 久司	竹内猪佐夫(菱重エステート)
副支部長 佐藤 明	灰塚 正隆(オオスミ)
〃 井澤 方宏	芦田 敏文(予防医学協会)
理 事 蒔田 道則	竹平 知義(労働衛生福祉協会)
〃 吉留 浩二	佐藤 研二(住友重機械)
監 事 望月 明彦	望月 速人(山梨労働センター)
〃 池田 善郎	星野 健二(JFE)
行 政 斎藤 晃彦	長久保 茂(神奈川労働局)

(事務局 芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し34年目。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I. 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。

26年間の卒後検診の総括を実施する予定で、基本的なデータの集積及び検討を行った。

責任者 藤原 芳人（本会幹事・横浜市医師会）

2. 調査研究

- ①学校現場と医療分野の連携を図るため、各市町村養護教諭部会と講演と情報交換の会を実施予定したが、実現には至らなかった。

責任者 生駒 雅昭

（本会幹事・聖マリアンナ医科大学 准教授）

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握

平成22年2月13日（土） 9地区 8名

・各地区現状報告（内科医との連携）

・学校腎臓病検診マニュアルの検討

責任者 高橋 英彦

（本会幹事・こども医療センター 腎臓内科）

II. 総会および研究会

平成21年 9月12日（土）15:00-

神奈川県総合医療会館

テーマ 「小児の腎不全」

講師 こども医療センター 腎臓内科

高橋 英彦 先生

出席者 26名

III. 医師部会研究会

医師部会研究会

12月5日（土）15:00- ワークピア横浜

テーマ 「小児期発生難知性ネフローゼに対するリツキシマブ治療の可能性」

講師 国立成育医療センター 腎臓科

伊藤 秀一 先生

出席者 32名

IV. 知識普及活動

1. 研究会機関誌機関誌「腎」23・24合併号の発刊（2,000部）

2. ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

（URL <http://www.shouni-jin.jp/>）

（事務局 佐藤 光宣）

禁煙、分煙活動を推進する神奈川県会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

平成15年「健康増進法」において受動喫煙防止が謳われ、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」によるタバコ対策につづき、「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月から施行された。本会も条例成立とその効果的な運用に向けて積極的に活動を展開してきた。

21年度活動内容

I. 会議

- (1) 総会 6月6日

- (2) 理事会 4回

II. 事業

1. 講演および情報提供 6月6日

2. 港南 禁煙・分煙をすすめる会 健康塾 3月6日

3. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
委託事業として随時開催
地域、学校・教育、国立保健医療科学院講義、
その他講師派遣128回

4. 関連会議への協力・参加 5回

5. イベントへの参加

- (1) 港南台駅前キャンペーン 8月4日

- (2) すこやかかながわ一万人健康ウォーク「健康生活展」11月7日

6. 意見交換、団体等への要望など

神奈川県高等学校PTA協議会役員会等 4回

7. 雑誌など掲載

8. メーリングリスト（ML）の運営

9. ホームページの運営

役員（理事会）の構成（22年6月5日現在）

会長 中山脩郎（神奈川県内科医学会名誉会長）

副会長 廣瀬好文（神奈川県立循環器呼吸器病センター所長）

〃 西野一紘（神奈川県歯科医師会副会長）

〃 大野秀利（神奈川県薬剤師会常務理事）

会計、監事、理事 30名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等）

（事務局 栗原 博）

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守るための公共的空間における新たなルールとして、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が制定され、平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するためには、民間と行政が、相互に、理解と協力のもとに対策を推進することが重要であり、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

その呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けることとなった。

(スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です)

設立呼びかけ人

- 社団法人神奈川県医師会
- 社団法人神奈川県歯科医師会
- 社団法人神奈川県薬剤師会
- 社団法人神奈川県病院協会
- 社団法人神奈川県看護協会
- 神奈川県

21年度活動内容

I 会議

(1) 運営委員会 2月2日

II 事業協力

1. 受動喫煙防止県民フォーラム 2月6日
2. 条例施行直前キャンペーン 3月25日

役員(運営委員)の構成(平成22年2月2日現在)

- 委員長 澤井博司(神奈川県医師会副会長)
- 委員 西野一紘(神奈川県歯科医師会副会長)
- 〃 芳村周平(神奈川県薬剤師会専務理事)
- 〃 吉田勝明(神奈川県病院協会副会長)
- 〃 天野三紀子(神奈川県看護協会常務理事)
- 〃 中澤明紀(神奈川県保健福祉部次長)

(事務局 栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会

- 日時、テーマ、講師、参加人数
- 4月11日「チャイルドライン、子どもの気持を聴く場所」上野和子・NPO法人チャイルドライン支援センター理事・9人
- 5月30日「DVの子どもへの影響」瀧田信之・湘南DVサポートセンター・10人
- 6月20日「知っておきたい性教育」岡本登美子・ウパパパハウス岡本助産院助産師・11人
- 7月11日「40歳台の小児科患者、骨髄移植体験者からの報告」名川和志・全国骨髄バンク推進連絡協議会・6人
- 9月12日「動作法入門、保健室で使える動作法」・大多和二郎・横浜心理臨床オフィス主宰、臨床心理士・14人
- 10月17日「発達障害の三つの視点」小見祐子・柿の木坂相談室、臨床心理士・12人
- 11月21日「スクールソーシャルワーカー(SSW)とは何か」池田恵子・調布市、人間市SSW・12人
- 12月5日「音による癒し『クリスタルボウル』を体験する」福島照代・8人
- 1月16日「色で心を元気に」前野公江・文部科学省認定AFT1級色彩コーディネーター・10人
- 2月27日「生きるための心の教育(性教育)で自分を守ることでできる子どもを育てよう」渡會睦子・東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授・13人
- 3月27日施設見学会「横浜市民防災センター」・5人

2. 夏期講習会

- 日時：平成21年8月10日～12日
- テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～
- 参加者数(延べ)：305人
- 10日「子どもを知り、子どもを理解する」藤掛明・聖学院大学総合研究所カウンセリグ研究センター准教授
- 11日「DVの子どもへの影響」瀧田信之・湘南DVサポートセンター代表、「学校における新型インフルエンザ対策」砂川富正・国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
- 12日「児童思春期発症の摂食障害」南達哉・神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科長、「脳の科学、ここまでわかった脳の仕組み」山本 勇夫・横浜市立脳血管医療センター長

会員状況

小学校14人、中学校7人、高校・短大8人、特別支援学校・保育園・ボランティア3人、その他15人、計47人

役員(順不同、敬称略、平成22年5月31日現在)

- 名誉会長 高田 和子
- 会長 山口 京子
- 副会長 藤沢 恵子(横浜市立南舞岡小学校)
- 幹事 佐藤まゆみ(神奈川県立川崎高等学校)
- 鈴木 晴美(横浜市立浦島小学校)
- 坂井 悦子(横浜市立間田小学校)
- 中野 保子(横浜市立荏田南中学校)
- 木村千恵子(川崎市立千代ヶ丘小学校)
- 平山 京子(北鎌倉女子学園)
- 菊池 幸江(川崎市立南河原中学校)
- 大木美恵子(川崎市立南菅中学校)
- 後藤 和泉(秦野市立本町中学校)
- 監事 中川 優子(藤沢市立藤ヶ岡中学校)
- 工平 きん(横浜市立勝田小学校)

(事務局 田中 恭子)